

奈良市環境基本計画市民ワークショップ第4回全体会議 会議録

<日 時> 平成23年2月8日（火）午後7時～

<場 所> 奈良市役所 北棟6階 第22会議室

<プログラム>

1. 会議の進行説明
2. 課題について（各分科会の発表）
3. その他

<会議資料>

- ①【資料1】第4回全体会議プログラム
- ②【資料2】分科会の記録
- ③第4回全体会議 ふりかえりシート

<出席者>

【市民ワークショップ委員】出席26名（欠席7名）

池田敏泰、井上聡夫、岡本胤継、梶野博子、上市佳織、北浦由香、北端辰昭、河野元昭、小松弘子、清水順子、田川嘉隆、日月英昭、鶴保謙四郎、中川徹、橋本光男、船本知子、三宅明代、横山亜希子、植本茂、横田好弘、向出佳史、矢藤加寿子、石田美智男、栗岡理子、黒飛啓、村木正義

【事務局】9名

環境政策課 高橋、桐山、新井、柴田、油谷、村井、南田、安宅、吉留

【コンサル】1名

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 大川

<傍聴者>

なし

<会議の概要>

1. 会議進行説明

司会（環境政策課 柴田）より、本日の会議の流れについて説明。

2. 課題について（各分科会の発表）

各分科会の発表者が、【資料2】を用いて説明。

- ・各分科会の発表 10～15分間
- ・質疑応答 5分間

各委員から活発な質疑・意見が交わされた。

環境教育分科会の発表

▶ 抽出された問題解決の方向性と課題について説明があった。

【質疑応答】

◇環境関係の教育として、教育というより活動として、大学関係の学生や先生への積極的な活動をお願いしたいと常々思っています。そういうことに関する議論はなかったのでしょうか？

⇒大学ということに関して特に議論には上がっておりませんが、関連部署というところで大学のことも若干考慮しております。

◇環境教育指導者育成について、県の森林環境教育指導者制度についてはご存じでしょうか？

⇒私も参加して知っています。ここでの人材育成は、森林だけに限らずすべての環境教育を含んでおります。

◇環境教育の核となる人材の育成については、どのようにして、誰が育成していくのか、仕組みについて何かお考えでしょうか？

⇒例えば、G. 組織で出ている環境教育推進の核となる組織が育成し、育成したリーダー等を各地域に派遣するようなことを考えていく必要があると考えますが、今回は課題を抽出するまでの段階ですので、具体的にどのような方法で育成するかということについては、次の段階と考えます。

◇環境教育推進の核となる組織をつくるためには、誰が中心的役割を担われるのでしょうか。例えば地域で活動している人たちが中心となるのか、またその他の人たちをどのようにその組織に組み込んでいくのか、何かお考えでしょうか？

⇒地域で活動しているところや、地球温暖化対策地域協議会など多くの団体があり、どこが中心となってよりネットワークを強化していくかについては、次のステップだと思いますが、実際に活動している団体などが協議していくことになるのではないかと考えます。

◇B. プログラム・内容で「～の現状を伝える」という問題解決の方向性が出ていますが、課題の中にはその言葉が出ていませんが、「目標設定を明確にし」という言葉の中に含まれると解釈してよろしいのでしょうか？

⇒それは「地域に合わせた」という言葉に含まれると解釈しています。それぞれの地域でいろいろな問題・課題があり、現状を伝えるということは、例えば水質汚濁や森林破壊が進んでいるということを伝えるという意味ですので、そのような地域の現状にあわせた環境教育のプログラムを実施する必要があると考えます。

自然・歴史分科会の発表

こういう街にしたいという願望や夢を盛り込みながら、問題点や課題を検討してきた。広い分野にまたがるが、66 項目の問題点（自然 40、歴史・文化財 17、まちづくり・景観 9、その他）から 44 項目の課題（自然 24、歴史・文化財 11、まちづくり・景観 9、その他）を挙げている。

奈良市は世界遺産のある街、世界に誇る歴史都市であるということを頭におきながら、自然・歴史をどのように保ちながら創造的な発展をさせていくかということのポイントに検討した。環境問題は、自然・歴史分科会だけでなく他の分科会も一緒になって総合力でなければ環境基本計画策定はできないのではないかという基本的な考えをもって議論を進めてきた。

昨年 10 月に奈良市で開催された世界歴史都市会議において採択した「奈良宣言」は、世界の歴史都市が持続可能な都市のモデルとなりうるという誇りと自覚をもって、さらなる独自の連携・協力を力を注ぐことを求めるというものであり、この宣言を忠実に守って世界に発信できる奈良市であってほしい。

▶ 分野ごとに、抽出された問題点と課題、こういう街にしたいという思いについて説明があった。

【質疑応答】

◇「シカと適切に共生する必要がある」という課題で対象としているシカは、春日山原始林のシカという解釈でよろしいでしょうか、それともシカ全般ということでしょうか？

⇒奈良公園周辺を中心に生息しているシカは、春日大社の神のシカ（神シカ）と呼ばれていません。またそれ以外に、農作物を荒らすシカが山間部中心に増えておりますが、そのような食害対策はまた別の問題で出しています。ここではシカ全般ということではなく、奈良公園周辺を中心に生息しているシカで、これらは観光の目玉であり、守っていくことが重要だと考えます。

◇「ゲリラ豪雨でも洪水にならない保水できる街づくり」という記載がありますが、毎年気象の記録が更新されているのが現状で、国も集中豪雨的なものが発生した場合には洪水になることやむなしということで、ハザードマップの公開などがなされています。奈良市でも今後集中豪雨が起こる可能性も考えられるため、洪水にならないということはもう言えないのではないのでしょうか？

⇒グローバルな問題ではあるものの、下水道・ため池の整備、森林の保全などにより気候変動に対応した街づくりという観点から、洪水に強い保水力のある街づくりを目指しています。

◇G. 景観(町並み)の課題において「規制」という言葉が自家用車の乗入れに関して出されていますが、ドイツやフランスなどヨーロッパの古い町並みが保存されているという例から考えると、条例化して確実に規制を図っていくというような課題の提供が必要ではないのでしょうか？

⇒世界遺産を守るために自家用車乗入れを禁止するという条例を作ることも 1 つの手段ではありますが、奈良市でそんな簡単に条例ができるとは思えません。市民が世界遺産を守っていくという強い意志を持つこと、そのような意識を育てることが重要だと考えます。

◇B. 自然(農地)の課題で、農業政策として大規模農業や農業改革など言葉は勇ましいですが、もう少し穏やかな方がいいのではないのでしょうか？市民ワークショップは、グローバルな世界的な話をする場ではなく、奈良市でできることを個別具体的に考え、提案する場なのではないのでしょうか？

⇒考えられる問題点や課題については、奈良市だけでできるものだけでなく国や県も含めた課題もあると認識しています。TPP については農業団体からの強い反対も出ており、農業改革と並行してやっていかなければならない状況にあります。大規模農業の展開は奈良市だけでできるものではないですが、若い人にいかに農業に参加していただくか、農業を魅力のあるものにしていくか、担い手を増やすことが求められていると思います。グローバルな問題意識を持ち

ながら奈良市でできることを考え、1つの視点だけでなくあらゆるところから総合的に考える必要があると思います。

◇G. 景観(町並み)の課題にある、電線の地下化を進めることによって、景観を良くするために逆に環境負荷が大きくなることはないのでしょうか？また、大規模農業という言葉は、環境保全と逆行しているように感じます。この言葉を使うのであれば、注釈を入れるなど今後検討してもらえないでしょうか？

⇒ヨーロッパなどでは景観を良くするために電線の地中化をしているところが数多くあります。電線が景観を悪くするという問題点から、世界遺産周辺の景観を保全するために電線の地下化を行う必要があると考えます。

生活環境分科会の発表

当分科会は他の分科会のまとめ方と異なっている。問題解決の方向性の欄に、対策・立案に際しての目的や視点、何のためにどういう考え方で問題解決を図っていくかという道筋を記載している。また課題の欄には、問題解決のためのアクションを記載している。そのため、本来の課題欄に記載すべき課題が抜けており、表が未完成な状態となっている。前回の分科会で問題点項目の議論に時間がかかりすぎてしまい、課題をまとめる時間がなかった。しかしよく考えれば、課題というのは問題解決を図るうえでのハードルとかボトルネックをここで示すべきだろうが、それは自明のもの、誰が考えてもすぐ思いつくものがある一方で、専門家や実務者、現場担当者の意見を聞かなければ、私たち一市民では思いつかないものがある。生活環境分野のメインテーマであるごみや廃棄物の問題については、回収した後の処理やリサイクル、埋め立てなど市民には見えないところで行われていることが多く、安易に想像で無責任に課題を決めつけるわけにはいかないと思っている。今後、ワークショップの作業過程の中で専門家からのヒアリングの機会があるということなので、その点は今後のワークショップの作業過程で確認していくことにして、全体の皆さんの作業に追いついていきたいと考えている。

▶ 分野ごとに、抽出された問題点と課題について説明があった。

【質疑応答】

◇優先順位として、出たごみをどうするかということよりも、ごみを出さない排出抑制が重要であると考えます。できるだけごみを出さないライフスタイルや施策について、そのような内容についての検討をお願いしたいと思います。また同じように、川の汚れがひどいという問題点については、川を汚さないような生活の工夫、意識の向上、施策など、出す前に考えるというような視点で分かりやすい課題の検討をしていただければと思います。

⇒川の汚れがひどいことについては生活排水の影響もあるので、今後検討していきたいと考えます。

◇レジ袋有料化については、社会全体がその方向に進んでいるものの、賛否両論あるため慎重にやらなければいけないと思いますが、県内の動向はどのようになっているのでしょうか？

⇒昨年、県のレジ袋有料化委員会に出席していましたが、県内一斉実施は中止となり、各市町村で各自実施ということになりました。県内で有料化している市町村はありません。橿原市は、生駒市と同様に削減キャンペーンなどを実施していると聞いています。

◇産業廃棄物の不法投棄は、東部山間地域で起こっており地域の景観を悪くしているという実態があります。業者の自主努力が重要ですが、法令遵守のための指導強化が当然必要だと考えます。また生活環境分野においても、CO₂削減に向けた地球温暖化対策を含めて、家庭の問題が重要で

あると思うので、家庭の皆さんの協力なくしては実施が難しいと考えますがいかがでしょうか？
⇒家庭の協力というのではなく、市民の義務だと思っています。そういう方向で意識づけをしていくという形でまとめていきたいと思えます。

県では、産業廃棄物の排出抑制等のために、事業者には1トン当たり千円の産業廃棄物税を課しています。また市では、不法投棄防止のために、人があまり通らない所を人が通ると音楽が流れるものを一部で設置しており、これは全国的にも評価されていると聞いています。

◇専門家や担当者の意見を聞くというのは私も賛成です。生活環境の分野では循環型社会をどうするか、拡大生産者責任などが入るのではないかと思います。ワークショップでは市民がどうするかということを中心に考えてきたため抜けていて当然だとは思いますが、プラス事業者という観点を入れていただきたいと思えます。

⇒拡大生産者責任を入れることについては分科会内でも提案していますが、時期尚早ということで、今後対策を話す上で検討していきたいと思えます。

市民ワークショップの意味をどこまで絞るかということで、あえて外しております。

◇共通問題として提案されたことについて、「環境関連法令の的確な運用」という課題が書かれていますが、不的確な事例があるのでしょうか？

⇒不的確な事例があるということではなく、十分権限が行使されていないという意味で、持っている権限を十分行使していないという問題点があると思えます。

都市環境分科会の発表

私たちが目指している奈良の街、都市環境はどのようなものなのか、目指すものがはっきりしなければどれが問題でどれが問題でないか決めかねるといふ議論もありながら、検討してきた。

抽出した問題点と課題は大きく4つに分類される。

- ①交通（F・G・I・J）・・・誰にでもやさしい配慮のある交通手段
自転車や歩行者がもっと住みやすいまちづくり
- ②安全・住みやすさ（A）
- ③市街地の景観（B・C・D）・・・ソフト面＝人づくり、意識の向上
- ④農山間地域の連携（E）

▶ 分野ごとに、抽出された問題点と課題について説明があった。

【質疑応答】

◇A. 安全・住みやすさの「耐震性を促進する」について、「耐震」という言葉の中に含まれているのかもしれませんが、通常は「耐震・耐候性」という言葉を使うと思えます。耐候とは長寿命化するというので、建物を短いサイクルで壊さないように、シロアリや台風などへの対策です。耐震性だけでなく、耐候性ということも追加していただければと思えます。

またD. 市街地緑化については、手入れができていない、形が悪いなどの現状があり、生態系に十分配慮した緑の保全・緑化が必要であると思えます。ただ緑を増やすということではなく、まずは保全が重要で、生態系や動植物に配慮した緑化が必要であると思えますので、それらの追加もご検討いただければと思えます。

⇒いただいたご意見のとおりだと思えますので、それらも分かりやすい形で明記していくように考えたいと思えます。

◇「緑が少ない」という問題点については、市街地緑化の分類にあることから管理する緑のことだと考えますが、本当に緑が少ないのでしょうか。例えば奈良市の緑被率などのデータを基に出

されているのでしょうか？それとも感覚的に出されているのでしょうか？

⇒奈良市全体の緑化率ではなく、市街地の緑化率から問題点が出されたと記憶しております。

緑を増やすということと同時に管理が不十分であることから、市民を巻き込んだ整備・種類の選定などが必要ではないかという問題点が出されました。生態系を配慮した緑の保全ということも検討していきたいと考えます。

◇奈良市の緑化については、剪定方法が問題だと考えます。木を剪定する時に、バッサリ切ってしまうはだかにされ木の形になっていない木が多すぎますので、管理上の問題であると思います。

◇自然・歴史を活かしたまちづくりということについては賛成です。I. 公共交通システムの「将来的に LRT が走れる環境を作っていく」という問題解決の方向性がありますが、確かに LRT は CO₂ 削減に効果的であるとは思いますが、奈良市の財政状況などを踏まえると簡単にできるとは思えませんがいかがお考えでしょうか？

⇒将来的に温暖化対策を考慮した、例えば LRT が走れる環境を作りたいという思いで入れています。

人口 10 万人以上の都市だと LRT の導入効果が大きいと言われていています。50 年、100 年先に LRT が走っている都市を目指したいという思いで記述しています。

◇地方である程度独立して中心がある都市構造では、LRT 導入はある程度効率性が発現できると思いますが、例えば奈良市のように極端にいえば大阪のベッドタウンのような都市になっている場合、自宅から駅までは車やバスで行く人が多い交通構造の中で果たして望ましいのかどうか、再度ご検討いただきたいと思います。

⇒いただいたご意見ももっともですが、果たして奈良市が大阪のベッドタウンでいいのか、京都の二番煎じでいいのか、という問題もあります。もう少し奈良市自体が独自性を発揮した方がいいのではないかという考えをもちながら、遠い将来を考えたいうえで、LRT が本当に奈良市で必要かどうかについて、今後問題提起として受け止めさせていただきたいと思います。

◇低公害車についての記述はあるものの、電気自動車の記述がありませんが、なぜでしょうか？エコカーとは何を指すのでしょうか？具体的な表現がありませんがいいのでしょうか？

⇒電気自動車だけが低公害車ではないと考えますので、すべてを含んで低公害車という記述にしています。

エコカーという言葉の定義は、その時点その時点ではしっかりなされるべきだと考えますが、現時点では、一般的に CO₂ 排出の少ない車のことを低公害車（エコカー）と言っています。今後、具体的な施策を検討していく段階で言葉の定義も必要になってくると考えます。具体的な表現については、今後の具体的施策の検討での段階になると思います。

◇地球温暖化対策分科会では、学問的な定義は分かりませんが、低公害車として一般的に EV 車（電気自動車）、HV 車（ハイブリッド車）の問題提起をしています。

地球温暖化対策分科会の発表

「産業と環境の両立」「利便性・経済性と環境負荷との両立」については、両立できるものとして総論の中での表記を提案したい。

ブレインストーミングで出された問題点は 1 2 の分野に分けられており、これらは個人が問題と感ずるものを出しているもので、元データがあつての問題点ではないことはご了解いただきたい。

▶ 分野ごとに、抽出された問題点と課題について説明があつた。

◇インセンティブシステムとは？

⇒インセンティブとは英語で、一般的には、おまけのようなもの。これを買えば何かインセンティブが働くなど経済動機を喚起させるようなシステム、やり方を、通常「インセンティブが働く」と言います。

◇CO₂推計システムとは？

⇒奈良市全体にどれだけのCO₂が排出されているか、現状はどうかを測定する方法、推計方法を合理的に市民に分かるような方法で、奈良市版で開発・提供することが重要だと考えます。

◇ライフサイクルコストとは？

⇒ライフサイクルコストとは、例えばLED照明では、インシャルコスト、ランニングコスト、メンテナンスコストなどありますが、最初買うときは高いけれど、電気代が10分の1くらいで長寿命のため交換が少なく済む（ランニングコストやメンテナンスコストが安い）。つまり、物の生産から廃棄までトータル的に見たときにコストがどうかということを判断するために、ライフサイクルコストという見方をします。

同じくライフサイクルCO₂についても、トータル的にCO₂排出量がどれだけかということ判断してライフサイクルで排出量の少ない製品を選んでいただきたいという考えです。

◇地球温暖化については、県民・市民の理解を得ることが重要だと考えます。市民に対して分かりやすい表現で環境基本計画に書いた方が良いのではないのでしょうか？

⇒ご意見はもっともですが、今回は問題点・課題の抽出作業ですので、市民に分かりやすい表現にすることについては今後、施策を検討していく段階で考えていくことになると思います。皆さんそのように認識しておられると思います。

3. その他

(1) 委員ご意見

○奈良市商店街振興会で後援している「なら瑠璃会」については、反対の方はいらっしゃいますでしょうか？例えば環境を壊すなどの理由で。

⇒経済と環境は両立しますので。

○事務局へのお願い

- ・今回は中間発表ということだが、今後どういうふうに進めていくかについて、とりまとめのやり方を分かりやすいようにしてほしい。
- ・今は分科会に分かれて検討しているが、施策の進め方や全体のフォローの仕方について、基本計画レベルにあげて、一項目として取り上げてもらう必要があると思う。

(2) 次回会議の案内等

事務局 柴田より事務連絡。

- ・ご提案いただいたことについても、今後ワークショップの代表・副代表とともに、運営方法や進め方、決定の方法についても考えていきたい。
- ・代表・副代表を決めるためのリーダー・サブリーダー会議開催についてはメールで案内済み。
- ・市民・事業所アンケートは現在集約中のため、速報を3月中旬頃にお知らせする予定。
- ・次回ワークショップは、4月開催予定。4月初旬・中旬頃に開催通知等をお送りする予定。
- ・ふりかえりシートは、2月16日（水）必着で事務局へ。